

自然を見つめ、災害に挑む

④ 謎多き「風」の研究深め

空気は気圧の高い場所から低い場所に流れる。それを「風」と呼ぶ。

岡山大で大学院生だった1998年10月、広島風を研究していた。台風が紀伊半島の南を通る際、鳥取、岡山両県にまたがる那岐山(1255m)から南麓に吹き下ろす強い局地風だ。瞬間風速は50以上に達し、被害をもたらす。折しも台風10号が日本に接近中。山に気圧計を置き、下山した。

ところが10号は予想進路を外れ、鹿児島県枕崎市付近に上陸。その後、那岐山を直撃した。広島風は吹かず、代わりに珍しい現象をとらえた。台風は中心付近で最も低くなると考えられがちだが、中心付近が通過した後、気圧が急落していた。世界的な気象学者の故藤田哲也博士(98

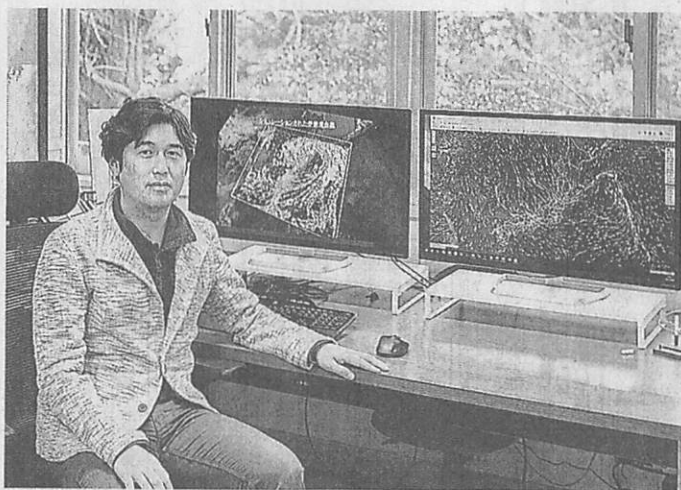
年11月19日没)が52年に命名した「プレッシャーディップ」だった。風が弱まった後、再び猛烈な風が吹き始める。大雨を伴うことも多い。発生地域の被害は大きくなる。転倒したり、飛来物が当たったりして命を落とす人が出てくる。プレッシャーディップに遭遇し

たことをきっかけに台風の研究に没頭した。台風は発生予測が難しく、急速に発達する要因など謎も多い。防災面からも研究を深めることが求められている。

実は岡山大理学部で気象学研究室の扉をたたいたのは「先生が楽しそうだったから」。風任せ、意欲がわくままのめり込み、日本を代表する台風研究者の一人になった。 3回掲載します

台風研究の第一人者

筆保 弘徳 横浜国大教授



ふでやす・ひろのり 1975年岩手県釜石市生まれ、岡山市育ち。今年4月から現職。学校教育を通じて社会全体の防災意識を高めるための研究にも取り組んでいる。44歳。

台風 熱帯低気圧(熱帯の海上で発生する低気圧)のうち北西太平洋にあり、最大風速(10分間の風速の平均)が秒速約17以上のもので、進路予想は現代でも難しく、気象庁が発表する進路予想図で、予報時間に台風が中心が予報円の内側にある確率は70%。将来の予報円が大きくなるのは台風が勢力を増すからではなく、進路予測がさらに不確実になるため。

離脱・不和 揺れる神社界

全国約7万9千の神社を傘下に収める神社本庁

(東京)が揺れている。「こんぴらさん」の愛称で

「当宮に対する嫌がらせ

としか思えない」。金刀比

羅宮の琴陵容母宮司(71)

ず「宮司代務者」に留め置

かれた。 琴陵氏は、本庁が201

宮(三重県伊勢市)を「本宗」と仰ぐ宗教法人だ。石清水八幡宮(八幡市)の宮司である田中恒清氏(76)が2010年から総長を務める。

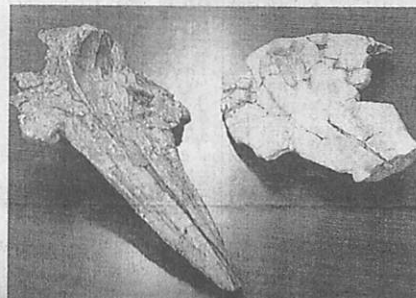
反発は他の神社からも上

がる。全国にある八幡宮の

総本宮、宇佐神宮(大分県

世界最古のマイルカ化石 群馬で発見

群馬県立自然史博物館は9日までに、同県安中市で見つかった化石は、1130万年前のマイルカ科の化石だったと発表した。日本時間7日付の米学術誌のオンライン版に論文が掲載された。これまでは北海道で発見された化石が世界最古とされてきたが「さらに200万年ほどさかのぼって古い」と説明している。



群馬県安中市で見つかったマイルカ科の化石 6月19日、群馬県庁

16年に宮司に就任。氏子らでつくる市民団体が罷免を求めて署名を集めるなど混乱が続いている。

「田中氏が総長に就いて以降、本庁からの天下りが目立つようになった」と宇佐神宮の関係者。田中氏は昨年6月、異例の4期目に

は訴訟の上

本庁からめられた(58)はと深く関

集権はな

示す。 本庁内